

学校目標・経営方針	子どものたくましく生きる力と豊かな言語力を育む ○一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る ○自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する ○物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する
-----------	---

山梨県立ろう学校校長 岩崎 雄治

本年度の重点目標	1. あらゆる教育活動の場に発達段階に応じたコミュニケーション活動を位置づけ、豊かな人間性を育み、言語力・コミュニケーション力の向上を図る。 2. 個々に応じた合理的配慮によって、わかりやすい授業を実践し、学力の向上を図る。 3. 心の教育・キャリア教育を充実し、社会的自立に必要な能力や態度を育成する。 4. 家庭・地域等との連携及び聴覚障害教育のセンター的機能の充実を図る。 5. 安心・安全な学校づくり。
----------	---

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			
本年度の重点目標		年度末評価(令和4年2月10日現在)	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	・6技能(見る、聴く、読む、書く、発表する、対話的なやり取り)を高め、豊かな表現ができるようにする。 ・個々の実態に応じた多様なコミュニケーション手段を活用し、状況に応じてコミュニケーション手段を選択できる力を育成する。	・聴能研修や手話・発音研修など聴覚障害に関する研修会を実施する。 ・補聴器・集団補聴システムを有効に活用する。 ・集団活動の中で、積極的にコミュニケーションを図るための工夫をする。	研修の実施状況 聴覚管理の状況 聴能機器の使用状況 集団授業、交流及び共同学習、部活動、行事等の実施状況
			・手話研修会やSTを活用した難聴研修会等を実施し、教員の専門性を高めることができた。個々の実態に応じて補聴器・集団補聴システムを活用できた。 ・コロナ禍のため交流及び共同学習を実施することができない場合も多かったが、授業や行事等では感染対策をしっかりと行い、コミュニケーションの機会をできる限り作ることに努めた。
			達成度 A 成果と次年度への課題・改善策 ・聴能研修や手話研修については全体計画の中で実施できたが、発音発語研修についてもより多くの機会を設ける。STを活用しやすい環境作りにも努める。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、感染対策を徹底していくことで、交流及び共同学習等を実施できる方策検討していく。
2	・ろう学校の専門性を生かしながら、授業力の向上を図る。 ・聴覚障害に係る専門性の維持・向上のため、計画的な研修及び授業研究を図る。 ・ICTの効果的な活用を図る。	・相互授業参観を設定し、お互いに授業を見合いながら、専門性を高める。 ・授業研究会を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の視点等から授業づくりの専門性を高める。 ・ICTを活用し、情報活用能力の育成及び「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善を行う。	相互授業参観見学実施 授業研究会実施 ICT機器の使用状況
			達成度 A 成果と次年度への課題・改善策 ・引き続き相互授業参観を今年度同様実施していくが、参観しやすい環境作りにも努める。 ・来年度は関東地区聾教育研究会が本校主催で実施されるのに合わせ、今年度の豊かな心と言語力を育む研究をより深めていく。 ・GIGAスクール構想のもとで来年度から導入が始まるBYODの活用に向けて、今年度の取り組みを継続・発展させていく。
3	・様々な人とかかわる力やつながる力を高められるよう、学校間交流、地域交流、居住地域交流など積極的に取り組む。 ・職業実習・地域活動を通じて、障害者理解を進めるとともに、就労支援や一般就労の拡大を図る。	・自立活動の中で、自己認識に関する内容を工夫しながら実施する。 ・キャリア・パスポートを活用し、継続したキャリア教育を推進する。 ・働くことに関する学習を充実させ、自己肯定感・効力感を持たせる。	自立活動(聴能・自己理解分野) キャリア・パスポートの実施 勤労体験、インターシップ、現場実習、社会科見学等の取り組み
			達成度 A 成果と次年度への課題・改善策 ・より丁寧な指導のために個別授業が多くなっているが、集団での学習を増やし、他者理解、自己理解を高めるよう今後も取り組んでいく。 ・キャリア・パスポートを活用し、将来の進路への見通しを持ったキャリア教育を行う。 ・キャリア教育を通して得た知見を現場実習やインターシップなどの実際の場面で体験し、その反省を次へつなげながら自分のものにしていけるよう工夫していく。 ・地域の聴覚障害に対する理解を進める活動を検討していく。
4	・保護者、地域における関係機関との連携・協働を図り、開かれた学校づくりに努める。	・コーディネーター会議を中心とし、より充実した支援やコーディネートのあり方について工夫、改善し、活動の周知と連携の強化を図る。 ・医療・行政・教育・福祉等の外部機関との連携を強化推進する。	コーディネーター会議の活用、専門家との連携・活用、資質向上のための研修及び還流 外部機関との連携及び諸会議の実施、連携協議会の実施、連絡会の実施、連携ケースの情報共有
			達成度 A 成果と次年度への課題・改善策 ・より多くの外部の難聴幼児生が本校を活用してもらえよう、本校の聴覚に障害に関するセンター的機能について広く周知していく必要である。 ・外部機関との連携強化を図りながら、聴覚に障害に関するセンター的機能を担う本校の専門性をより一層高めていく。
5	・災害発生時に自分の身を守る行動がとれるよう防災教育や避難訓練を計画的に実施する。危機管理マニュアルを見直す。また、感染症等の予防及びまん延防止対策の徹底を図る。	・様々な場面の避難訓練を行い、自らどうすればよいかを子ども自身に考えさせる場面を設定する。 ・危機管理マニュアルを絶えず検討する。	防災教育、避難訓練の計画・実施・振り返り
			達成度 A 成果と次年度への課題・改善策 ・引き続き広範囲の災害を想定した避難訓練を実施しつつ、より良い訓練を目指し改善を行っていく。また、今年度、新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点で実施を控えた引き渡し訓練を来年度は実施していきたい。

学校関係者評価	
実施日(令和4年3月1日)	
評価	意見・要望等
4	・聴覚障害分野における教員には高度な専門性が求められるため、教員にとって様々な学習の機会が保障される環境を是非構築して欲しい。 ・COVID-19以後のニューノーマル時代の交流及び共同学習の形態について検討を進めていただきたい。 ・コロナ禍により対面での外部交流が減ってしまいましたが、聾学校ではできない経験も外部交流でできることがあるので、今後も大切だと思います。 ・感染症対策をしっかりと講じながら、6技能を意識した教育活動が位置づけられていたように思います。
4	・1及び3と関連するが、障害の有無に関わらない部分での専門性の向上と、聴覚障害分野の特別支援学校教員としての専門性の向上の2つが求められるため、両方の視点での研修や実践研究について、より一層取り組んで欲しい。 ・次年度の関東地区聾教育研究会主催に向けて、今年度は外部講師も活用して「豊かな心と言語力」の取り組みが熱心に行われたものと思います。県内に1校しかないろう学校にとって、まさに命綱とも言える貴重な研修の場が今後も大いに活用されることを望みます。
4	・社会情勢により、今年度も交流の取組が難しくなったと思われるが、主に高等部の記述に偏っているため、幼・小・中における取組の評価についてもお願いしたい。 ・2つある評価項目の1番目はこの箇所であっているのかということ、「障害者理解を進める」という文言に対する評価はどうなっているかということについて言及していただきたい。 ・個別授業が多く、他者・自己理解を高めることは難しいが、キャリアパスポートを活用することで、自己評価し、今後の自己実現につなげて欲しいです。 ・社会に出てから他者とかかわりながら物事に取り組むためには、幼少期から人とかかわりの中で自己理解や他者理解を深めていくことが大切だと思います。幼稚部からの一貫教育の中でたくましく育成されることを今後も期待しています。
4	・支援体制や連携についてよくできているとの自己評価であるので、今後は維持またはより一層の向上を進めていただきたい。 ・(「幼児生」という言葉が一般的でない為違和感があること、「聴覚に障害に関する」というのは誤表記?) ・正門から正面玄関にかけてのアプローチや駐車場が整備され明るく開放的な雰囲気になりました。全県下のセンター的機能を果たしていくためには、このような施設設備面での改修も不可欠だと思います。校内美化の観点からも、次は各棟のトイレ及び体育館更衣室の改修を期待します。
4	・今後はCOVID-19やその他感染症大流行下での災害時の避難など、訓練・練習方法などを考えていかなければならないと考える。 ・笛吹川が大雨の際には増水している様子に心配していたので、洪水浸水の訓練を実施したことは今後の安心につながった。 ・洪水・浸水を想定した避難訓練、感染症蔓延防止対策といった喫緊の課題に取り組んでいました。今後、現在工事中のJR山梨駅南口広場供用開始に向けて、自主通学生の通学路を含めた駅南口の安全利用を検討することが課題としてあげられると思います。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。